

授業科目 住居における環境学

【担当教員名】 入江建久	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

<一般目標：G I O>

健康で快適な生活を保障する住居の環境的側面（空気、温熱、音、光、水）のあり方を学習し、住居がQOLを根底から支える基盤であるという認識を確立する。

<行動目標：S B O>

1. 住居が生活の全てを支える基盤であり、基本的人権として位置づけられることを説明できる。
2. 室内空気汚染について、その諸相とシックハウス問題、アレルギー問題等との関連を説明できる。
3. 高気密化した現代住宅の特徴と、「通風・換気」の重要性を理解できる。
4. 温熱環境について、わが国の気象条件の特徴、室内温熱条件の健康影響、省エネ問題等を理解できる。
5. 音環境について、騒音対策や「聞こえ」の衰えへの対処を理解できる。
6. 光環境について、日照問題や視覚の衰えへの対処を理解できる。
7. 水環境について、給排水衛生設備の概要や湿気対策を理解し、レジオネラ症など微生物感染問題も説明できる。

回	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	1. 住居とは 1) [住] の位置づけ 2) 国民生活時間統計	1	講義
2	3) 阪神淡路大震災の教訓 4) コミュニティの中の住居		
3	5) 住居の要件 6) シックハウスとは		
4	2. 空気環境 1) シックハウスシンドローム	2	講義
5	2) ハウスダストとアレルギー問題 3) 微生物汚染問題		
6	3. 通風・換気 1) 通風と換気 2) 換気理論	3	講義
7	4. 温熱環境 1) 日本の気象 2) 温冷感と冷暖房	4	講義
8	3) 省エネルギー問題		
9	4) 過暖房の問題点 5) 結露の諸問題		
10	5. 音環境 1) 騒音問題と音響計画 2) 聞こえの保障	5	講義
11	6. 光環境 1) 日照問題 2) 視覚の保障	6	講義
12	7. 水環境 1) 給排水、衛生設備 2) 水と微生物	7	講義
13	8. 高層居住の諸問題	2, 3	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書	健康に住まう知恵	入江建久	晶文社	2002	1500円＋税
参考書	居住福祉（岩波新書527）	早川和男	岩波書店	1997	640円＋税
	人間環境学	日本建築学会編	朝倉書店	1998	3600円＋税
その他の資料	プリント等適宜配布				

【評価方法】 学習態度、レポート、 期末筆記試験（持込自由）	【履修上の留意点】 新聞、ラジオ、テレビ等マスコミで報じられる居住環境問題に常に関心をもつように。 将来「福祉住環境コーディネーター」受験を考えている者は履修することが望ましい。
--------------------------------------	---